

白地小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

正確に読もう！発信しよう！ふり返ろう！
～思考力、判断力、表現力の向上を目指して～

校長

松本 珠実

学力向上推進員

東 由紀

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○落ち着いて真面目に学習に取り組むことができている。</p> <p>○視写や聴写等の活動を通して、書くスピードが上がり、その量も増えている。</p> <p>●語彙が乏しく、様々な表現方法にふれる機会も少ない。表現に関する知識・技術の習得に課題がある。</p>	<p>・様々なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取ることができる。</p>	<p>・木曜日のドリルの時間を「視写・聴写タイム」とし、新聞等様々な文章にふれたり、その情報を正確に読み取ったりすることができる。(週1回以上)</p> <p>・授業では、課題解決の前に必要な情報を正確に読み取れているか確認する。(授業等)</p>	<p>・視写や聴写を行う際は、書き写すだけでなく、正確に読み取れているか読み取った内容を確認したり、それに対する自分の意見を発表したりする機会を設定し、理解を深める。</p> <p>・授業の始めに前時の学習についてふり返り、本時の課題や学習内容につなげられるようにする。</p>	<p>視写の後に書き写した文章に対する感想や意見を考えたり、要約したりする活動を行った。高学年では、文章を読む際には大事な点や着目する点を伝え、ラインや印をつけながら読む習慣が身についてきた。</p> <p>簡単な内容であれば概要を正しく読み取れる児童も増えてはきたが、十分ではなく、個人差も大きい。</p>	<p>授業や「視写・聴写タイム」、NIEの実践を進め、情報を正確に読み取る力の向上を目指す。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○自分の意見を進んで伝えられる子どもが増えるとともに、司会の仕方等、話し合いがスムーズに進むよう工夫する姿も見られる。</p> <p>●意見はあるものの、それを的確に表現する力が十分育っていない。</p>	<p>・根拠や自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信することができる。</p>	<p>・各教科や児童会活動等、話し合い活動の充実を図る。</p> <p>・目的や相手に応じた表現方法で、学んだことや伝えたいことを発信する活動を行う。</p>	<p>・ペアやグループ、学級全体等、話し合う形態を工夫し、全員が自分の意見を伝えられるよう配慮する。</p> <p>・他学年や他校の児童に学んだことを伝える等、相手意識をもって活動できるようにする。</p>	<p>「よくできた」「できた」という回答が約7割で、様々な場面で話し合い活動を行うことができた。目的や相手に応じた意見をじっくり考えて発表したり、下級生が高学年を手本にして話したりする姿も見られた。</p> <p>その一方、「十分に学習の成果を発信する機会がもてなかった」「発表の場で小さな声でぼそぼそ話している児童も多い」という課題もあげられた。</p>	<p>基本的な「話すこと」「聞くこと」に関するスキルの定着、向上を目指す。</p> <p>学級や異年齢集団等、対話的に学ぶなかで、根拠や自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信する力の向上を図る。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○素直で優しく、決められたことに一生懸命取り組むことができる。</p> <p>●より高い目標に向かって、粘り強く取り組むことに課題がある。また自己肯定感の低い子どももいる。</p>	<p>・自己の成長に気づき、主体的に粘り強く学習に取り組むことができる。</p>	<p>・行事や授業におけるふり返りの充実を図る。</p> <p>(低学年)めあてを明確にして、具体的に自己の学びをふり返ることができるようにする。</p> <p>(中学年)活動や授業のめあてにそったふり返りができるようにする。</p> <p>(高学年)授業のねらいや場面に応じて、ふり返る内容を焦点化するようにする。</p>	<p>・子ども達が学んだことについてじっくりふり返れるよう、十分な時間を確保する。</p> <p>・口頭だけでなくタブレット等を活用し、文字や動画等、ふり返ったことを記録に残して活用する。</p>	<p>低・中・高学年ごとに設定した目標を大体達成することができた。支援が必要な児童については、めあてを個別に想起させたり、具体的なふり返りを例示したりすることが効果的だった。</p> <p>しかし、「ふり返りをする時間の確保が難しかった」、「口頭のみでのふり返りになってしまう」という課題もあげられた。</p>	<p>ふり返りを記録する時間を確保する。また、それをもとに児童が自分の成長に気づき、次の学習の課題に気づいたり意欲を高めたりすることができるよう、授業改善を行う。</p>